

④ しかし、農業機械や化学肥料、農薬の利用など、農業の近代化の面では、このせまい耕地をじょうずに使うくふうが、まだまだ足りないようである。

ウ 日本は耕地がせまいから、中部地方やさひめ、鹿児島のようにくふうが行なわれている。

エ 日本は耕地がせまいから、農業の近代化によって、もっと耕地を広げるようにしたい。

九、次の文章の要旨はどれですか。よいと思うものをあとから一つ選んで、記号を○でかこみなさい。

わたしたちの太すきな本は、紙でつくられ、絵や文字が書いてあります。

ところできみたちは、石でできているすばらしい本のあることを知っているでしょうか。

それは、わたしたちの足もとに横たわっている大地なのです。といっても、きみたちにはすぐ信じられないかも知れません。だが、大地はほんとうにすばらしい本なのです。この石でできた本には、地球や生物の生い立ちや歴史が書いてあります。

ア 絵や文字の本も石の本もかわりがない。

ウ 石の本は絵や文字の本よりねうちがある。

イ 本の中には石でできている本もある。

エ 足もとにある大地はすばらしい本である。

十、次の詩を読んで、下の問いに答えなさい。

冬の夜道を

ひとりの男が帰って行く。

はげしい仕事をする人だ。

そのつかれきつた足どりが、

そつくり、それを養わしている。

月夜であった。

小じやりをふんで、

やがて一けんの家の前に立ち止まった。

それからゆつくりこうし戸をあけた。

「お帰りにさい。」

① 土間に燈がもれて

女の人の声が出た。

すると、それに続いて、

どこかのへやのすみから、

一つの小さな声が出た。

1 次のことばは、この詩ではどんなことを言っていますか。よいと思う答えを一つ選んで、記号を○でかこみなさい。

① 土間に燈がもれて

ア 土間せんたいが、ぱつと明るくなって。

イ あちこちから土間に光がさして。

ウ 土間にまつかの火の粉がこぼれて。

エ どこからか土間に光が細くさして。

② 行きずり

ア そこをなんども行き来していた。

イ やつと行きつくことができた。

ウ なんとはなしに通りかかった。

エ ふたりでさがしていた。

2 ③ わたしの心には、明るい一本のろうそくが燃えていたとは、どんなことをいおうとしているのでしょうか。一つ選びなさい。

ア 冬の夜道は月が出ていたので、わたしの心に燃えているろうそくよりも明るかった。